

2021 年度事業報告総括(案)

コロナ禍の蔓延

2021 年度前半は、コロナ禍の蔓延が十分に収まらず、収拾に向けた様々な制約が施され、全専門委員会もオンサイトの活動に制約をうけ、中止縮小せざるを得なかった事業も数多く発生した。また、オリンピック直前に予定していた国際大会(ワールドイズワン)も実施できないまま、数多くの大会やイベントが中止に追い込まれた。

TOKYO2020

このような中、TOKYO2020 は無観客にて開催されたが、異常事態の中での選手の努力と運営に関わった全国の会員やボランティアの尽力と結束により、大会を成功裏に終了することができた。

新体制発進

オリンピック終了後、JSAF 組織も 9 月より馬場会長率いる新体制が始まり、これまでの体制の良いところを残しつつも、様々な新しい取組の検討がスタートした。2 月には、JSAF ビジョンにつづき、中長期計画が策定され、普及マーケティングに関する検討も動き出した。また、ガバナンスコード遵守に向け、毎年の自己説明の公表に加え、4 年に 1 度の適合性審査にも合格した。

後半には、コロナ禍も徐々に収束の方向に向かい、安心と安全を担保したセーリング活動継続をすすめるとともに、さらに、全専門委員会も、コロナ禍で学んだオンラインコミュニケーションを活用することで組織内の相談量や判断スピードも向上し、現場を支える活動に最大限尽力してきた。広報活動や障がい者推進、環境保全などで新しい取り組みもされた。今年度を通して、いまだ経験したことのない激動の年であったといえる。

まだ、課題は多く残っているとはいえ、これらの数々の工夫や連携は、新たな年度に向け、数多くの加盟している団体とのベクトルを合わせながら推進するために、必ずや良い結果をもたらすことができると確信している。